



祝賀会であいさつされる森脇さん

# 「オリックス・バファローズ」監督に就任 社高校野球部出身の森脇浩司さん

社高校野球部出身の森脇浩司さんが、プロ野球チーム「オリックス・バファローズ」の監督に就任され、同校野球部OB会（林雅弘会長、750人）により12月2日、ホテルグリーンプラザ東条湖で就任祝賀会が開かれました。

森脇さんは西脇市黒田庄町の生まれで、昭和51年に社高校に入学。野球部では1年生からレギュラーの座を獲得し、シヨートで活躍されました。

昭和54年にはドラフト2位指名で近鉄バファローズに入団し、広島東洋カープ、南海ホークス、福岡ダイエーホークスでプレー。引退後は福岡ダイエーホークス、福岡ソフトバンクホークス、読売ジャイアンツでコーチを歴任し、オリックス・バファローズでは、コーチから監督代行を経て、平成24年10月に新監督に就任されました。

祝賀会には約60人が出席。森脇さんは、当時の野球部マネージャーから花束を受け、「これはゴールではなく、スタートと受け止めています。

先輩諸氏から学んだことを還元できればと考えています。この重責を果たすべく、日々努力を重ねてまいりますのでよろしく願います」とあいさつされた後、各テーブルを回って全員と握手し、お礼を述べられました。

当時の社高校野球部監督だった三浦憲治さんは「OB会として、これほどの喜びはない。チームとしてはトップレベルではなかった。本人は投手希望だったが、勝つためにシヨートを指名した。スカウトからは『強肩で、プロとしてのハートがある』と言われる、人とは違う努力を重ねた。人柄は素晴らしい。オリックスに勝ってもらおうよう頑張っ

てほしい」。

1学年先輩の山口孝裕さんは「2年間一緒にプレーしたが、先輩、後輩ともに信頼されていた。ノーヒット・ノーランが達成できたのも、森脇さんの素晴らしい守備があったからと感謝しています」。

2学年後輩の中嶋研二さんは「初めて見た時は、強肩で

守備が上手でびっくりした。練習中も厳しくて、森脇さんの前でミスしないかドキドキだった。でも、近鉄へ入団されてからも、主将になった私に、寮から『うまくいってるか』と電話で何度も励ましてくれた。このような気配りはぜひ見習いたい」と、当時を振り返られました。

森脇さんは、参加者らと一緒に記念写真を撮ったり、ユニホームや色紙などへのサインにも気軽に応じられ、参加者らは「みんなでオリックス・バファローズを応援し、応援ツアーも実施していく」と、OB会や地域をあげて応援していくことを誓っていました。



ユニフォーム姿の森脇さん。昨シーズン後半には監督代行としてチームの指揮も。